

## 「皆さんに知ってもらうために・・・。」

今回は、小中一貫教育の利点や不利といわれている点についてCSのコーディネーター部会で話し合われた内容や一般的に言われていることについて紹介したいと思います。

### 【小中一貫教育の利点と不利な点】 ※義務教育学校や施設一体型の場合のみあてはまる点も含まれています。

#### 利点

##### ○「中1ギャップ」の軽減や解消

中学校へ進学する際に起こりやすい学習面や環境面などの変化から生じる心理的な問題の軽減や解消が見込まれます。

##### ○異学年交流による好ましい成長が図れる

9年間続く環境では異学年交流が活発に図られ「上級生は下級生のお手本になろうとする意識」「下級生には上級生に対するあこがれの気持ちが高まる」という効果が期待できます。

##### ○校種間を超えた教職員の乗り入れ

小学校の授業で、中学校の先生が教えることで理解が進みやすくなるということも期待されます。

#### 不利な点

##### ○人間関係の閉塞化

9年間同じ環境で生活するので変化のない安心感のある一方、人間関係が閉塞化しやすいため、一度関係が固定化してしまうと修復しづらいという側面があります。

##### ○人間関係形成力に困難

高校進学の際に初めて新しい人間関係を築くことになるので、他の学校に通う生徒よりもストレスを抱え込みやすくなる場合があります。

##### ○小学生の高学年の活躍の場の減少

小中全校児童生徒で行う行事等では、中学3年生がリーダーシップを発揮するため、小学生の高学年が力をつける場が少なくなる傾向があります。

ここで紹介したのは利点・不利点の一部で、この他にも様々な良い面や課題があるかと思えます。ご覧いただいておりますおわかりになられるかと存じますが、ある面でよいと捉えられることが、別の視点でみると課題だと感じられるケースもあります。いふなれば利点と不利とされる点は裏返しの関係といえます。

たとえば、9年間の生活環境を整えることで中1ギャップの解消につながるメリットが、高校進学の際の戸惑いを生むかもしれないというデメリットになることもありえます。このことに関して、コーディネーター部会でも、「そもそもギャップを取り除く必要があるのか?」「適切にギャップを乗り越えていくことが人間的な強さにつながるのではないか。」というご意見がありました。

今後、小中一貫教育に向けての話し合いを進めてくうえで「検討すべきことがら」や「大切にしなければならぬこと」をしっかりと押さえ、学校運営協議会を中心に保護者、地域の皆様の声を聴かせていただきながら、じっくりと向き合っ参りたいと存じます。